



一関市のI L C誘致に向けた取組みについて

一関市市長公室 I L C推進課長 小野寺 順子

【I L Cを基軸としたまちづくり】

一関市は、I L C計画を「一関発展の基軸」と位置付け、まちづくりを進めています。

一関市内で行われている、市および市民・企業等の取組みそして、子どもたちに向けた取組みについてそれぞれの面からご紹介します。

【市の取組み】

最初に市内における取組みですが、I L C誘致を見据えつつ将来のまちづくりを進めるため、平成25年12月に市内連絡会議を設置し、I L C誘致が実現した際の国内外の研究者の受け入れ態勢などについて検討を行っています。

また、奥州市と宮城県気仙沼市との3市連絡会議を立ち上げており、情報共有を図って3市共通のチラシ作成などを行うほか、3市と宮城

県登米市、栗原市、大崎市、南三陸町の連名による誘致看板を作成し、各市に通じる幹線道路沿いに設置するなど、県境や市域を意識しない取組みを行っています。

・広報活動の展開

一方、I L C誘致の実現に向けて、I L Cの価値と意義や将来のまちの姿、新たな産業、仕事などについて広く市民等に理解を深めていただけるよう、平成24年度から現在まで、自治会、企業、各種団体をはじめ、小学生、中学生、高校生までを対象に勝部市長自ら延べ133回の講演を行ってきております。

また、少人数の集まりなどの講演要請に際しては職員が対応し、市民からのI L Cに対する疑問や質問に応えております。

さらに普及啓発の一環として、平成24年度か



市が発行するI L Cニュース

ら、市内全戸にI L Cニュースを配布しております。I L Cニュースは、市内で行われたI L C関連事業や国内外の動きなどを中心に情報を



一関図書館「サイエンスカフェ」の様子

広くお知らせすることを目的とし、現在13号まで発行しました（平成27年6月時点）。ILCニュースは、市のILC専用ホームページにも掲載しています。

・研究者を招いたセミナー等の開催

次にセミナーや講演会による普及啓発についてですが、ILC関連技術や構成機器の産業応用への理解を深め、関連産業への参入を促進することを目的に、民間企業を対象にしたILCセミナーを平成24年度からシリーズで開催し、これまで延べ300人余の参加をいただきました。また、科学技術アドバイザーを平成26年度か

ら設置し、定期的なセミナーも開催しています。そのほか、市民に素粒子物理学をはじめとする科学について、気軽に語り合い科学を身近に感じ親しんでもらうことを目的に、一関図書館を会場に「いちのせきサイエンスカフェ」を実施しています。

ここでは高エネルギー加速器研究機構（KEK）や東北大学の先生方、宇宙や加速器などの科学漫画を描いている漫画家の方々を迎え、講義や講師との意見交換を行うなど、生徒・学生を含む市内外から多くの方々に参加いただいております。

今年度は第1回として8月2日（日）に開催し、来年1月まで計4回を予定しています。

・様々なしかけと工夫でアピール

その他にも、ILC実現に向けたグッズとしてピンバッジを作製し、希望者には無料配布しているほか、市内各所にILC看板を設置、パネルやのぼり旗は、イベントや事業の際に展示しています。

また、地中で素粒子が加速器を通り、中央の測定器内で衝突し反応を起こす様子をLEDの光で表現するジオラマを、JR一ノ関駅新幹線コンコース内に設置しております。さらにより多くの方々にILCをイメージしてもらうた

め、可動式ジオラマも新たに作製、イベント会場や会議会場に運び込んで設置しています。

【市民・企業等の取組み】

学校や各種団体、自治会、企業などが、ILCの実現を目指し誘致活動を盛り上げる取組みを市内各地で行っています。

・大東地域での取組み

ILC建設予定ルートを中心付近に近い大東地域の中原中学校では、同校PTAと共同地元建設会社の約130mにわたる壁の一部に「ILCの波及効果で元氣な三世代」を描いた看板を掲げました。

看板の制作では、同校3年生と市長が一緒に絵を切り抜く作業を行い、同校生徒によるILCを待ち望む標語や英語による歓迎メッセージパネルと一緒に設置しました。

設置された場所は、国内外の研究者等による視察の際のルートにあり、視察等で現地を訪れた方々へのPRに大きな効果を発揮しています。

同じく大東地域の東大東図書館の一角には、大東図書館と一関商工会議所大東地域運営協議会で組織する「ILC学びの事業委員会」がKEKなどの協力を得て「見る・聞く・読む・知る」をテーマに「ILC学びツール」コーナーを設

置しています。コーナーには、ILC関連の実験施設を紹介するパネルやILC関連の書籍、DVD、奥州宇宙遊学館（奥州市）設計による実験装置のミニチュアも展示されています。

・地域住民等による多彩な活動

市内各地域では、地域住民等が一体となった取組みが行われています。

ILCと子どもたちを題材にした花壇や、ILCの文字を色鮮やかな花々で表現しILCの実現に大きな期待を込めた看板と一緒に整備した花壇など、毎年、工夫を凝らした花壇によりILC誘致を盛り上げています。

また、まちづくりを考え実践する地元商店主などで組織する会社がJR一ノ関駅西口の商店街約600mの両側の街路灯に、70旗の「ILCの実現!!」と記された応援フラッグを掲示しているほか、トラック、タクシー各協会支部では車両掲示用ILC誘致ステッカーを作製し自社車両の側面や背面に貼付、地域の工業クラブでは、国道にかかる陸橋にILC誘致応援の横断幕を設置するなど、ILC実現に寄せる地域住民や民間団体の期待が高まりを見せています。

その他にも、地域の老人クラブ連合会や自治会連合会主催の演芸大会において、ILC実現を題材に市の職員も交じり寸劇を上演したりす



幹線道路沿いに設置されたILC誘致花壇

るなど、様々な形での市民からの普及啓発も行われています。

一方、工業振興を目的に、両磐地方の28事業所で行く両磐インダストリアルプラザ（通称：RIP）では、ILCの実現を見据えたまちづくりの検討結果を報告書にまとめました。

報告書は、教育、食と文化、一関の魅力の3分野について、それぞれの課題や具体的な対応策などをまとめた内容となっています。

【子どもたちに向けた取組み】

KEKの藤本順平理学博士が子どもたち向けの講演の中で、お話される言葉があります。

「ILCは、君たちのマシン（実験設備）である」と。

ILCが稼働するころ、社会の中核を担う次代の人材の育成を図ることを目的とした子どもたちへの取組み事例を紹介いたします。

・中学生最先端科学体験研修

市では平成23年度から毎年、市内の中学3年生60人ほどをつくば市のKEKや宇宙航空研究開発機構（JAXA）などに派遣し、最先端の科学に直接触れる研修を行っています。

研修後は、研修で学習したことを各自レポートにまとめ発表しますが、子どもたちが普段目にするのではない最先端の実験施設に驚きつつも実験の内容に興味を持った様子や、自身の将来の夢の選択肢としてILCや科学技術、宇宙研究に関わることが加わったなどの感想が報告されています。

平成25年度には、科学技術について理解を深め自己の進路や地域の将来について考える機会とすることを目的に、研究者の方々によるILC特別授業を市内すべての中学校で実施しました。ILC特別授業は学校側からの要請により現在も行っています。

・英語力アップと国際感覚醸成

また、英語での会話や異文化体験を通して、



KEK見学で熱心に説明を聞く中学生のみなさん

英語力や国際感覚を身につけることを目的に平成26年度から「英語の森キャンプ」を開催しています。

キャンプは、市内の中学生が2泊3日の宿泊研修中、原則英語のみでの会話を基本とし、グループ活動やゲーム、世界の文化紹介などを行います。カリキュラムにはILCを学ぶ講話もあり、昨年度はKEK・ILC推進準備室の高橋理佳さんが、「ILCと仕事」について英語で講話を行いました。今年度は募集人数を増やして行われます。

同じく平成26年度から児童生徒と共に地域

住民がILCに対する理解を深め国際感覚を身に付け、併せて子どもたちによる地域からの情報発信を行っていく事業を開始し、最初の事業として大東地域の6地区の公民館（現市民センター）が主催する「いちのせき未来創造デザイン工房 ILC学び塾」が行われました。

この事業は、地域の小・中学生がILCや宇宙について学ぶとともに地元の史跡や観光スポットを見学し、ILCと地元への関心や理解を深めたのち、子どもたちによるILCのポスターコンクールを行いました。

ポスターコンクルールの表彰式では、応募ポスターの展示や国際交流に関する講演のほか、CGイラストレーターのRev.Hori.xunが描いたILCイラストやILC模型の展示など多彩なイベントが行われ、大東地域の障がい者福祉サービス事業所が作ったILCをモチーフにしたパンやロールケーキの初販売も行われました。

ポスター全作品は、海外からの研究者の視察の際の休憩場所に展示したり、クリアファイルとカレンダーの図柄に採用し、視察に訪れた国内外の方々のお土産として活用しています。

「ILC実現に向けて」

ILCの実現を見据え、市民や民間で様々な

取組みが活発に行われてきており、ILC実現への期待の高まりを感じています。

また、市長の講演を聴いた子どもたちが「将来、科学者や研究者になりたい」「ILCで働きたい」という手紙を届けてくれます。

「ILCが実現することにより、この地域は、世界遺産平泉と共に世界に誇れる二つの宝物がある地域となる」。この言葉は、市長が講演等の中で常に話すことです。

文部科学省が設置するILCに関する有識者会議が先月末に開催され、同会議が検証してきた内容の中間とりまとめが示されたところですが、その中で国民の理解を得る必要についても提言されています。

地域を超えあらゆる年代の多くの方々にILCの価値と意義を理解していただく、地域の盛り上がりや岩手、東北、そして日本全体へ広げていく、実現に向け受け入れ態勢等を着実に整えていく取組みを、関係団体や関係自治体と共に進めて参ります。

次代を担う若者、子どもたちが夢と希望と誇りをもち活躍できる地域を目指して、ILC実現に取り組みでいきましょう。